

TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース eyes104
澤田知子 狐の嫁いり — 白川義員写真展 永遠の日本／天地創造 — 二〇二一年度 展覧会スケジュール

©Tomoko Sawada

Tomoko Sawada

To Be Bewitched by a Fox

2F 2021.3.2|火|-5.9|日|

INTERVIEW

澤田知子
狐の嫁いり

自らがさまざまな人物像に扮するセルフポートレイトの手法を軸にしながら、“内面と外見の関係”をテーマに作品を制作してきた澤田知子。日本のみならず海外でも高く評価され、25年以上にわたって第一線で活躍してきた彼女が、国内の公立美術館では初となる大規模個展を開催する。展示構成も自ら手がけるという澤田に、制作の意図や、葛藤の末に見定めた進むべき道すじ、展覧会開催にかける思いなどについてお話をうかがった。

デビュー作の《ID400》(1998)は、発表された当初から大きな話題となりましたが、制作のきっかけは美術大学での授業だったそうですね？

〈澤田〉大学では情報デザイン科の写真コースを選択したんですが、ゼミで指導をうけた畑祥雄先生にはテーマやコンセプトを設定する重要性や、それに基づいて制作し、展示でみせる手法について徹底的に教えていただきました。でも最初のうちは、「写真とは何だろう?」「自分は何をしたいのだろうか?」という問いに対する自身の答えを明確に言語化できなかったので、考えたことを書き出すようにしていたんです。先生や先輩にも話を聞いてもらいながら半年くらい続けて、すこしずつ考えがまとまりだした頃、突然、頭の中に浮かんだのが《ID400》のイメージでした。

モノクロの顔写真がグリッド状に並ぶ様は圧巻でした。すべて澤田さんご自身を被写体しているわけですが、具体的にはどのように制作されたのですか？

〈澤田〉撮影には証明写真機を使いました。自宅から一番近い設置場所は大型スーパーに付属の立体駐車場で、下見に行ってみると斜め前にトイレがあり、着替えやメイクもできて好都合だったので、そこで撮影することにしたのです。

かつらや衣装を10着分くらい持って行って、トイレで変装をすませたら、友人に見張っておいてもらって、人気がないときに証明写真機に走り込み撮影する、

ということを繰り返しました。もちろん本来の目的で撮影をしに来る方もいて、見られないようにするのに苦心しましたね(笑)。

同じ風貌で写っているものは一つもありませんね。

〈澤田〉衣装は友人や親戚、ご近所さんなど、いろいろな年齢層の方に声をかけて貸してもらいました。お化粧は、自分にとっては絵を描くことに近いのです。当時の証明写真機はフラッシュがとても強いから、薄いメイクだと細部が全部光で飛んでしまって、同じ顔に写ってしまう。であれば、それを逆手にとって利用しようと、顔をキャンパスのように使い、ファンデーションを白く塗って実際より顔を大きく見せたり、化粧で顔の造形を作り込むなどの工夫をしました。また風貌を変えるために、制作期間中に体重も7キロ落としています。

体重まで調整するなんて、まるで役者さんみたいですね。

〈澤田〉まだ若かったからできたことですね(笑)。「写真界のロバート・デニール」と呼ばれていた時期もありました。

“内面と外見の関係”をテーマに貫く

そこまでしながら制作した《ID400》のテーマとは、どんなものだったのでしょうか？

〈澤田〉最初は授業の課題としてこの制作をはじめたのですが、当時提出した作品のコンセプトとしては「簡単に変わる外見と変わるはずのない内面」と

書いていました。

以後、おおよそ一年に1シリーズのペースで作品を制作してられました。1990年代に女子高生たちの間で流行し社会現象にまでなった“コギャル”のファッションや“ガングロ”と呼ばれるメイクに注目した《cover/Face》(2002)や、異性から求められる女性像としてキャバクラ嬢やホステスに扮した《MASQUERADE》(2006)、髪型やメイク、表情といった微細な差異によってアジアのさまざまな国の人に見えるよう変装した《FACIAL SIGNATURE》(2015)等々、ほとんどの作品でご自身が被写体となり、異なる人物象に扮しています。

〈澤田〉私の作品制作に通底する大きなテーマが、“内面と外見の関係”です。これはすべての人に関わる普遍的なテーマでもあり、作家人生を通して追求できる問題にたどり着くことができたのは、素晴らしい授業をしてくださった畑先生のおかげです。

澤田さんはセルフポートレイトの作家として



《Cover / Face》部分 2002年 発色現像方式印画(20点組)作家蔵 ©Tomoko Sawada

表紙／《ID400》部分 1998年 自動証明写真機で撮影したプリント 東京都写真美術館蔵 ©Tomoko Sawada

みなされることが多いと思いますが、ご自身の作品をタイポロジーでもと分析されていたね？

〈澤田〉10年ほど前に、アメリカにあるアンディー・ウォーホル美術館のレジデンス・プロジェクトに招待されたのですが、この時《sign》(2012)というシリーズを制作しました。美術館の地元、ピッツバーグ州に本拠地を置くハインツ社のケチャップとマスタードをモチーフに、ラベルの文字を各国の言葉に変えて“変装”させるというものでした。しばらくしてから、恩師である畑祥雄先生とトークイベントをする機会があり、《sign》をスライドに映しながら話していると、突然閃いて「先生、私の作品はタイポロジーじゃないですか?」と尋ねたら、「そうだよ」と即答してくださったんです。

タイポロジーの直訳は「類型学」ですが、写真においては、同じ種類の被写体を撮影し、複数を並べて見せることで、個々の差異や共通点を際立たせたり、記号化された写真イメージと現実との関係を考えさせるようなコンセプトualな表現のことを差しますが、澤田さんはセルフポー



《sign》部分 2012年 発色現象方式印画(56点×2組)作家蔵 ©Tomoko Sawada

トレートの手法を使いながら、それを行っているということですね？

〈澤田〉先生のほうがずっと、私の作品を理解してくださっていたんですね。このとき、自分が何をしているのかが明確になったように感じて、このやり方を続けて良いのだと確信を持つことができました。もう一つ自分にとって大きかったのは、木村伊兵衛写真賞を受賞したときの審査員代表スピーチで、篠山紀信さんが私の作品を「時代を映すドキュメンタリーだ」と評してくださったことです。実は畑先生も同じことをおっしゃっていて、今回の個展ではそのお二人の言葉を意識しながら構成を考えました。

化かされるか否かは観る人しだい？

展覧会には証明写真機で撮影した《ID400》の、唯一のオリジナルプリントが初公開となる他、新作を含め全作品の約半数にあたる13シリーズが出品されるそうですが、レトロスペクティブのような展示方法はとらないとうかがいました。

〈澤田〉私は全部同じテーマで作品を制作してきたので、新旧の作品を混ぜ合わせて一つの世界観をつくりあげることも可能なんじゃないかと考えました。いわば、展覧会全体を新作として見ていただけるような内容にしたいと思っています。

展覧会名を「狐の嫁いり」とした理由はなんですか？

〈澤田〉最初にヒントになったのは、お世話になっている編集者の方から教えていただいた“お面”と“仮面”というキーワードです。お面は、たとえばひょっとこのように、被ることでそのキャラクターを演じなくてはならないもの。一方、仮面はあくまでも自分が被るのであって、アイデンティティを隠すも隠さないも自由なのです。私は自分の考えを作品にしているだけだから、被っているのは仮面ということになります。見る人によってはお面で化かされていると思うかもしれない。そんなふうに、化ける・化かされるということについて考えていたとき、

頭に浮かんだのが狐でした。もう一つのきっかけは、伊勢神宮へのお参りです。《影法師》(2018)という映像作品をどう制作すれば良いのか悩んでいたのも、アイデアが浮かびますようにとお願いをしたところ、内宮の中にある几帳がはためいているのが見えて、その様子から「影と光を使えば良い」という考えがパッと浮かんだんです。そこで神社と狐、そして私の制作してきた作品のすべてがつながって、出てきた言葉が「狐の嫁いり」でした。



《影法師》2018年 シングル・チャンネル・ビデオ、B&W、サイレント、ループ 東京都写真美術館蔵 ©Tomoko Sawada

まるで物語の題名のようにも、どんな展覧会になるのかより楽しみになりますね。

〈澤田〉一つだけ残念なのは、今はほとんどの方が、私自身が変装していると知った上で作品を見に来られるということです。まだ無名だった頃は、「もしかして全部同じ人か?」という驚きを味わってもらえていたんですが……。今回の展覧会ではできるだけ楽しんでもらいたいから、会期が始まるまで具体的な内容については極力秘密にしたいと思っています(笑)。

インタビュー・構成 富田秋子

澤田知子 さわだ・ともこ

兵庫県神戸市生まれ、在住。成安造形大学造形学部デザイン科写真クラス研究生修了。内面と外見の関係性をテーマとしたセルフポートレート作品で知られる。デビュー作《ID400》で2000年度キャノン写真新世紀特別賞、2003年度木村伊兵衛写真賞、ニューヨーク国際写真センターのThe Twentieth Annual ICP Infinity Award for Young Photographer 受賞。世界各地で展覧会を開催するほか写真集や絵本を出版。

澤田知子 狐の嫁いり Tomoko Sawada: To Be Bewitched by a Fox

2F | 2021.3.2 | 火 | - 5.9 | 日 |

澤田知子は、2000年にセルフポートレート作品《ID400》でキャノン写真新世紀優秀賞を受賞、現在、国内外で高く評価される女性作家です。本展では、新作を初公開するほか、鮮烈なデビュー作や代表作より、「内面」と「外面」の違いに疑問を持ちながら制作を続ける、澤田の歩みに焦点を当てます。

[主催] 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

[協力] 株式会社堀内カラー

[助成] 公益財団法人朝日新聞文化財団

[観覧料] 一般700円 ほか 各種割引あり

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。



第一期 永遠の日本

Eternal Japan

2021.2.27|土|-4.4|日|

第二期 天地創造

The Earth

2021.4.6|火|-5.9|日|

世界的写真家で、山岳写真家としても輝かしい実績を残す白川義員は、「地球再発見による人間性回復へ」を創作活動の基本理念として、地球がもつ美や神秘、荘厳さを追求し続け、1969年出版の『アルプス』以来、『ヒマラヤ』『アメリカ大陸』『聖書の世界』『中国大陸』『神々の原風景』『仏教伝来』『南極大陸』『世界百名山』『世界百名瀑』まで、10のシリーズを発表してきました。このたび、東京都写真美術館では白川義員の集大成となる2つのシリーズを二期構成で紹介いたします。

第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、日本人の誇りと魂を復興する一助になりたいという作家自身の願いが込められた、崇高で美しい日本の自然を紹介いたします。

第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、アメリカ西部の砂漠で、入域が1日わずか20人に限定されているザ・ウェーブや、中国の湖南省・張家界市に位置し、「仙境」と呼ぶにふさわしい武陵源など、いずれも近年知られるようになった地域や、「奇跡の絶景」といわれ最近話題の南米ウユニ塩湖などを中心に構成されています。

白川義員 しらかわ・よしかず

1935年愛媛県生まれ。57年、日本大学藝術学部写真学科卒業、ニッポン放送に入社、文芸部プロデューサーとして勤務。59年にフジテレビに移籍、62年同社を一時退職し、中日新聞の特派員として8ヶ月間世界一周の写真取材を行う。同社退社後、フリーランスの写真家として活動を開始する。精力的に世界中を取材し、写真集『ヒマラヤ』（小学館、71年）により、72年、第13回毎日芸術賞、第22回芸術選奨文部大臣賞を受賞。その後、地球がもつ美や神秘、荘厳さを追い求めた「地球再発見による人間性の回復へ」シリーズを展開。79年から80年にかけての『聖書の世界』三部作（小学館）により、81年全米写真家協会最高写真家賞を日本人として初めて受賞。88年、第36回菊池寛賞、95年、第27回日本芸術大賞を受賞。93年、83日間をかけて人類史上初の南極大陸一周に成功。97年以降は世界の山岳関係者が選定した「世界百名山」プロジェクトに着手、世界の名峰127座をカメラに収める。99年、紫綬褒章を受章、2002年、国際連合郵政局が「国際山岳年」を記念して白川作品による記念切手を発行。12年、シリーズ11作目『永遠の日本』（小学館）を発行。20年2月、シリーズ12作目『天地創造』（小学館）を発行。



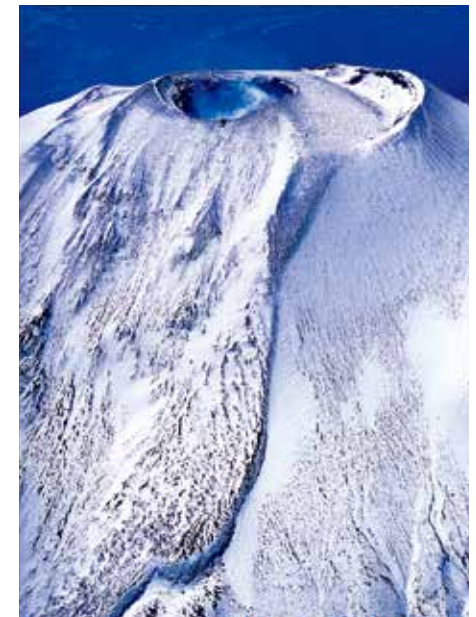
Photo: 藤澤卓也



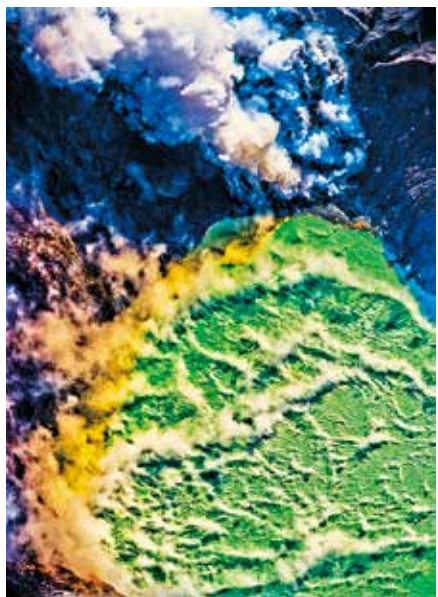
《流水と知床連山》



《日光湯川》



《浅間山》



- 1) 《ザ・ウェブ、アメリカ》
 - 2) 《K2 8611メートル北稜、パキスタン・中国》
 - 3) 《デス・ヴァレ国立公園、アメリカ》
 - 4) 《阿蘇中岳第一火口、日本》
- 作品はすべて作家蔵

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



日本写真家協会創立70周年記念 「日本の現代写真1985-2015」

CONTEMPORARY JAPANESE PHOTOGRAPHY 1985-2015

B1F 2021.3.20|土・祝|-4.25|日|

「フィルム」から「デジタル」へ
激変の時代、表現の可能性に挑戦し続けた
写真家たちのイメージの軌跡

創立70周年を迎えた日本写真家協会(JPS)は、これまで1968年に催したわが国の写真表現の歴史を綴った「日本写真史1840-1945」や、「日本現代写真史1945-1970」、「日本現代写真史1945-1995」に続くものとして写真展「日本の現代写真—1985~2015」を開催いたします。1985年から2015年はフィルムからデジタルへと表現手段が変化したことにより、写真、

そして映像全般を取り巻く環境が劇的に変化した時代で、写真家による代表作を通覧し、30年間を総括する写真展です。

本展では編纂対象とする30年を10年ごとの3期に分類。この時代に活躍した152人の写真家の代表作をご紹介します。

第1期(1985~1994年)

経済の拡大によって人々の関心がグローバルに向かい、写真史上グラフィジャーリズムが最も充実してフォトジャーナリズム全盛を誇った時代

第2期(1995~2004年)

急速に進んだデジタルカメラの性能向上により、フィルムカメラからデジタルへの切り替えが始まった時代

第3期(2005~2015年)

写真表現の主流がデジタルとなり、さらにSNSの進化によって発表手段が劇的に変化した時代



土田ヒロミ<新・砂を数える>シリーズより《鳥取砂丘》

[観覧料] 一般1,000円 ほか 各種割引あり
<公式サイト>www.jps.gr.jp/jps70/

第45回2020 JPS展

B1F 2021.5.1|土|-5.16|日|

[観覧料] 一般700円 ほか
<公式サイト>www.jps.gr.jp/jpsten/

柴田ただし《神使》カラー3枚組






〈お問い合わせ〉
公益社団法人日本写真家協会 03-3265-7451

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。

2021年度 東京都写真美術館 展覧会スケジュール

東京都写真美術館で、2021年4月～2022年3月に開催する展覧会ラインナップをご紹介します。国内外で活躍する作家の個展や、当館珠玉の名作コレクション、新進作家によるグループ展など、1年を通じてさまざまな作品との出会いをお楽しみください。

展覧会の詳細や関連イベントは、決定次第、公式ホームページにアップします。公式ツイッターやインスタグラムではタイムリーな情報を発信します。

 @topmuseum
  topmuseum
 <https://www.topmuseum.jp>

2021.3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2022.1 2 3 4 5

3F

展示室

白川義員写真展 永遠の日本／天地創造
2.27(土)～5.9(日) ※展示替えを行います
国内外で撮影されたダイナミックな風景美を二期構成で紹介



新・晴れた日 篠山紀信
5.18(火)～8.15(日)
1960年代から現在まで、時代の変化とその熱量をとらえた写真を二期構成で紹介



**リバーシブルな未来
日本・オーストラリアの現代 写真**
8.24(火)～10.31(日)



日豪の現代作家を紹介し、両国に共通する問題意識に焦点をあてる

日本の新進作家 vol.18
11.6(土)～2022.1.23(日)
日本の新進気鋭の作家を発掘、紹介するグループ展

第14回恵比寿映像祭
2022.2.4(金)～2.20(日)
恵比寿を起点に展開するアートと映像のフェスティバル



写真発祥地の原風景はこだて
2022.3.2(水)～5.8(日)
幕末明治のはこだてにタイムスリップ。近代化する街や人々の様子が目前に

2F

展示室

澤田知子 狐の嫁いり
3.2(火)～5.9(日)



セルフポートレイトの手法を軸に国内外で活躍。新作も初公開

インタビューはP1へ

2、3階展示室で開催

宮崎学
8.24(火)～10.31(日)
自然界の報道写真家として約半世紀に渡る活動の軌跡



松江泰治
11.9(火)～2022.1.23(日)
世界各地の地表を独自の視点で写す作家の近作から最新作までを紹介



第14回恵比寿映像祭
2022.2.4(金)～2.20(日)
恵比寿を起点に展開するアートと映像のフェスティバル



TOPコレクション 光のメディア
2022.3.2(水)～5.8(日)
写真における「光」をテーマに、珠玉の名作を紹介

B1F

展示室

**日本写真家協会創立70周年記念
日本の現代写真1985～2015**
3.20(土・祝)～4.25(日)

第45回 2020 JPS展
5.1(土)～5.16(日)

第46回 2021 JPS展
5.22(土)～6.6(日)

山城知佳子 リフレーミング
8.17(火)～10.10(日)



出身地沖縄と自身の関係に向き合い制作された初期から最新作に至る系譜

写真新世紀展2021
10.16(土)～11.14(日)

Prix Pictet(プリピクテ)
11.20(土)～2022.1.23(日)

第14回恵比寿映像祭
2022.2.4(金)～2.20(日)
恵比寿を起点に展開するアートと映像のフェスティバル

本城直季展
2022.3.19(土)～5.15(日)

1)白川義員《ザ・ウェーブ、アメリカ》作家蔵 2)篠山紀信《晴れた日》1974年 東京都写真美術館蔵 3)ボルクセニ・パバペトローウ《来訪者》(世界のはざま)より2012年 Courtesy of Robert Nelson and Michael Reid Gallery 4)ライムント・フォン・シュティルフリート《函館》明治5(1872)年 東京都写真美術館蔵 5)澤田知子《ID400》部分 1998年 東京都写真美術館蔵 ©Tomoko Sawada 6)宮崎学 シリーズ《けもの道》より《ホンデン》1977年 東京都写真美術館蔵 7)松江泰治《DENMARK 17939》2012年 東京都写真美術館蔵 8)マイナー・ホワイト《窓枠の白屋夢、

ロチェスター、ニューヨーク州》1958年 東京都写真美術館蔵 9)山城知佳子《Reframing(仮称)》のためのイメージ版より「珊瑚ベイビー」2020年5月以降に始まる展覧会名はすべて仮称です。展覧会スケジュールは2021年2月現在の予定です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。



1F 二重のまち／交代地のうたを編む

交代地 —— 出来事の体験者から非体験者へ記憶を手渡し、ちいさな継承をはじめるための場

本作は、東日本大震災後のボランティアをきっかけに活動をはじめ、人々の記憶や記録を遠く未来へ受け渡す表現を続けてきたアーティスト「小森はるか+瀬尾夏美」によるプロジェクトから生まれました。『二重のまち』とは、かつてのまちの営みを思いながらあたらしいまちで暮らす2031年の人々の姿を、画家で作家の瀬尾夏美が想像して描いた物語。陸前高田を拠点とするワークショップに集まった初対面の4人の若者たちが、自らの言葉と身体で、その土地の過去、現在、未来を架橋していくまでを、映像作家の小森はるかが克明かつ繊細に写しとります。



© KOMORI Haruka + SEO Natsumi

[2019年 / 日本 / DCP / 79分]

〈お問い合わせ〉東風 TEL.03-5919-1542 〈公式サイト〉www.kotaichi.com/

[上映期間] 2021.2.27(土)-3.18(木) [休映日] 2021.3.1(月)、3.8(月)、3.15(月)

[料金] 当日券:一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)1,100円 各種割引あり

1F 音響ハウス Melody-Go-Round



© 2019 株式会社 音響ハウス

〈お問い合わせ〉太秦株式会社 TEL.03-5367-6073
〈公式サイト〉www.onkiohaus-movie.jp

[上映期間] 2021.3.21(日)-4.2(金) [休映日] 2021.3.22(月)、3.29(月)

[料金] 当日券:一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)1,200円 各種割引あり

「CITY-POP」の総本山として近年再注目を集めているレコーディングスタジオ・音響ハウスにスポットを当てた音楽ドキュメンタリー。音響ハウスは1974年12月に東京・銀座に設立され、一昨年創立45周年を迎えました。原音を忠実に録音できる環境を常に提供することをモットーに、国内外の著名ミュージシャンたちに愛され、数々の名曲・名盤が生み出されてきました。坂本龍一をはじめ、大貫妙子、高橋幸宏、松任谷由実、松任谷正隆、佐野元春、矢野顕子、デイヴィッド・リー・ロス(ヴァン・ヘイレン)ら多彩な顔触れが音響ハウスとの出会いや思い入れ、楽曲の誕生秘話を語ります。

[2019年 / 日本 / カラー / ビスタ / Digital / 5.1ch / 99分]

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。

お家で楽しむ 東京都写真美術館

東京都写真美術館 公式YouTubeチャンネル



写真美術館の展覧会をもっと楽しんでいただけるよう、作家や担当学芸員が**作品を解説する動画や、展覧会場の動画を公開**しています。**トークイベントのライブ配信**やアーカイブも閲覧できますので、ぜひ公式YouTubeチャンネルを訪れてみてください。東京都写真美術館ホームページの各展覧会ページからもご覧いただけます。

東京都写真美術館
公式YouTubeチャンネル▶



色と形と言葉のゲーム



東京都写真美術館では、写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するきっかけとなるようなプログラムを行っています。作品鑑賞プログラムのウォーミングアップ教材として生まれた「色と形と言葉のゲーム」は、さまざまな言葉が書かれたカード(80種類)とカラフルな色と不思議な形のカード(12色21種類)を使って、**楽しく遊びながら、観察力、想像力、発想力、語彙力、傾聴力、直観力などを育むことができます**。子供から大人まであらゆる方が楽しめるこちらのゲームは、東京都写真美術館ミュージアム・ショップのほか、NADiff Online Shopでもご購入いただけます。

4,150円(税抜) NADiff Online Shop▶



東京都写真美術館ニュース 別冊『ニアイズ』



120号

毎月第3水曜日に発行している東京都写真美術館の広報誌。展覧会だけでなく、東京都写真美術館のさまざまな業務やスタッフたちの素顔を紹介する漫画。カレー 沢薫先生の漫画「クレムリン」(講談社)とのコラボレーションで、3匹の猫(関羽)と飼い主(キャッツ山春雄)が職員見習いとして奮闘しながら、毎号フィクションを交えつつ、普段の美術館ではなかなか見えない、とっておきのエピソードを紹介します。バックナンバーを含むすべての号がホームページでご覧いただけます。



最新号とバックナンバー▶

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》
キャノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》
キャノンマーケティングジャパン(株)
ゲッティイメージズジャパン(株)
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》
アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
リコーイメージング(株)

《支援会員》
(株)アール&キャリア
(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アオイネオン(株)
(株)浅沼商会
旭化成(株)
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)ADKクリエイティブ・ワン
SMBC日興証券(株)
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーションナル
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKグローバルメディアサービス
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
(株)NHKビジネスクリエイト
エルメス財団
OMデジタルソリューションズ(株)

(株)オンワードホールディングス
カールツァイス(株)
花王(株)
加賀電子(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
(株)カメラの三和
(株)かんぽ生命保険
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キッコーマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
（一社）共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三菱石油(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXTGホールディングス(株)
(株)JT
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
チャンネル(同)
(株)NHKテクノロジーズ
シュッピン(株)
(株)小学館
城西国際大学メディア学部
松竹(株)

信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジエ
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友化学(株)
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
双日(株)
ソニー(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
第一法規(株)
(株)ダイケンビルサービス
（一社）台新国際商業銀行
大成建設(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
大和証券(株)
(有)タカ・インシギャラリー
(株)高島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
(株)タニタ
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
東急(株)
(株)東京印書館
東京空港交通(株)
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタディオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)

(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
(株)日本カメラ社
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
日本航空電子工業(株)
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
(株)日本デザインセンター
(株)ニッポン放送
日本レコードマネージメント(株)
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフュージョン
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハースト婦人画報社
(株)ハーツ
パナソニック(株)
(株)パラゴン
ぴあ(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
光写真印刷(株)

ビクトリコ
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
(株)プリンスホテル
(株)フレームマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マジジンハウス
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール

2F SHOP
ミュージアム・ショップ

NADIFT
BAITEN

展示会の開催に合わせて、品ぞろえがガラリと変わるミュージアム・ショップ。春の訪れを少しずつ感じはじめるこの季節、心も晴れやかになるようなカラフルなグッズを取りそろえています。

ひびのこづえハンカチ 1,000円～1,200円(税抜)
ひびのこづえタオル 500円～800円(税抜)



詳細ページはこちら▼



[営業時間] 10:00-18:00 [TEL] 03-6447-7684
[定休日] 毎週月曜日ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

1F CAFE
カフェ

MAISON ICHI
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)

本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,200円
季節のラザニア(自家製パン付き) 1,200円

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます
自家製バゲットのピザ 380円～
ぶるぶる生ブルマン 1斤 480円 1.5斤 680円
ドリンクバー(コーヒー・カフェラテほか) 380円
アルコール類もあります。
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税抜)

詳細ページはこちら▼



[営業時間] 10:00-18:00 [TEL] 03-6277-3862
[定休日] 毎週月曜日ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

SCHEDULE / スケジュール

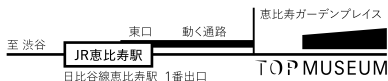
展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2021				
3	白川義員写真展 永遠の日本/天地創造 (収) 2.27(土)-5.9(日)	澤田知子 狐の嫁いり (収) 3.2(火)-5.9(日)	日本写真家協会 創立70周年記念 日本の現代写真 1985-2015 3.20(土・祝)-4.25(日)	二重のまち/ 交代地のうたを編む 2.27(土)-3.18(木)
4				
5			第45回 2020 JPS展 5.1(土)-5.16(日)	音響ハウス Melody-Go-Round 3.21(日)-4.2(金)
6	新・晴れた日 篠山紀信 (収) (企) 5.18(火)-8.15(日)		第46回 2021 JPS展 5.22(土)-6.6(日)	
7				
8	リバーシブルな未来 (企) 8.24(火)-10.31(日)	宮崎学 (企) 8.24(火)-10.31(日)	山城知佳子 (収) 8.17(火)-10.10(日)	
9				
10			写真新世紀展2021 10.16(土)-11.14(日)	
11				
12	日本の新進作家 vol.18 (企) 11.6(土)-2022.1.23(日)	松江泰治 (収) 11.9(火)-2022.1.23(日)	Prix Pictet(プリピクテ) 11.20(土)-2022.1.23(日)	
2022				
1				
2	第14回恵比寿映像祭 2.4(金)-2.20(日)			
3	写真発祥地の原風景 はこだて (収) 3.2(水)-5.8(日)	TOPコレクション 光のメディア (収) 3.2(水)-5.8(日)	本城直季展 3.19(土)-5.15(日)	(収) 収蔵展 (企) 企画展

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00 ※入館は閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ2021」104号 □発行日:2021年2月27日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 企画広報 □印刷・製本:株式会社公衆社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2021 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はホームページをご覧ください。

